支援現場から見たひきこもりの現状

ＮＰＯ法人青少年自立援助センター
理事長　河野久忠

1

ひきこもりの長期化

☆ひきこもりの長期・高年齢化の背景は、親子の共依存関係によるところが大きい。

→受容して見守りましょうと言うアドバイスのもとに、無条件で見守り続けることの問題。

→孤立状態での一つの大きな問題は、社会性の獲得の機会の喪失。

☆長期・高齢化しての当事者の課題

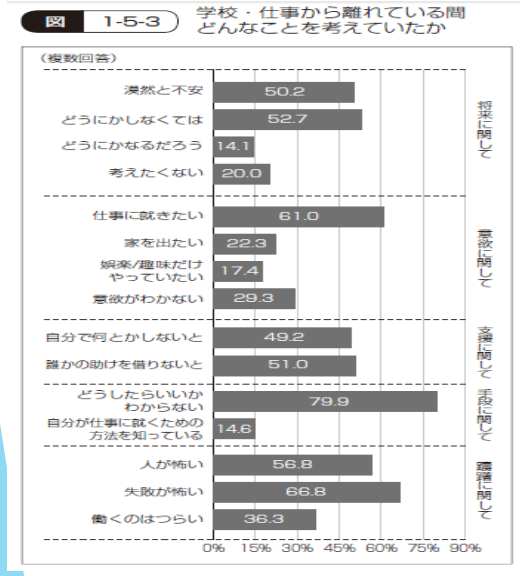
・あきらめ感の増大・自己肯定感の低下

→保護者のあきらめ感も強くなる

・履歴書の空白問題

2

調査結果から見えるもの



出典：当事者の効果的な発見・誘導に関する調査研究（認定ＮＰＯ法人育て上げネット）

生活状況に関する調査（Ｈ３０年）内閣府
｛４０歳～６４歳｝

失敗が怖い	５３．２％
馬鹿にされるのでは？	４８．９％
変な人扱いされるのでは？	４４．７％
会話に自信が無い	４４．７％
家族に申し訳ない	４８．９％

☆長期・高齢化するほど当事者のあきらめ感は増大する。

長期・高年齢化で問題になること

- 犯罪の問題
- 精神疾患の発症
- 自殺の問題
- 生活保護等社会的コストの増大
- 他の兄弟への経済的・精神的負担

ひきこもり状況に対する必要な支援

・保護者相談　→　総合的な見立て機能。ひきこもり特有の家族関係や孤立状態でおこる当事者の行動等を見立て、適切な支援に繋げることが重要。

・訪問支援　→　当事者に対する緩やかなアプローチで関係性の構築や情報提供を実施。他の家族の精神的なケアやバランスを取っていくことも重要な役割となる。

・自立支援　→　段階的な支援が必要
（状況により必要な支援や段階は異なる）
～医療・福祉・居場所・自助グループ・就学・就労支援～

5

家族の問題としてひきこもり

☆就労が必ずしもひきこもり支援のゴールではないが、親亡き後の生活がどのようになるのかは当事者にとって重要な課題となる。
支えがなくなった際に急激に動くことは精神的にも厳しいダメージになりかねない。
だからこそ、失敗の許される段階的な体験が出来る就労支援現場も重要となる。

☆日本の福祉は、家族が支えて当たり前との考えだった。ひきこもりは家族も巻き込まれた状況である。当事者の人権もあるが、家族の人権も尊重して考えなくてはいけない。ひきこもり支援は家族支援という考え方で行く必要がある。

6